

# 先覚者

富山の

19世紀末のヨーロッパでは、日本美術の特質を自らの芸術に生かそうとするジャポニズムが広まっていた。その中心地パリにあって、誰よりも日本美術や日本文化を伝えたのが林忠正です。

忠正は「国際美術貿易商」としてヨーロッパに日本文化を紹介し、印象派の画家や小説家、文学者、評論家らを通じて、近代ヨーロッパ美術の形成に大きく貢献しました。

パリ万博国際博覧会事務官長として「日本古美術展」を開催し、国宝級の美術品を陳列公開することによって、日本には高い文化があったことを西欧諸国に紹介した富山県人です。



忠正が手掛けた絵入り雑誌「パリ・イリュストレ」誌の日本特集号(1886年5月)。日本人による初の西欧向け日本紹介記事であった。

世界にジャポニズムを広め東西文化の懸け橋となった先覚者

## 林忠正 HAYASHI TADAMASA

### 略歴

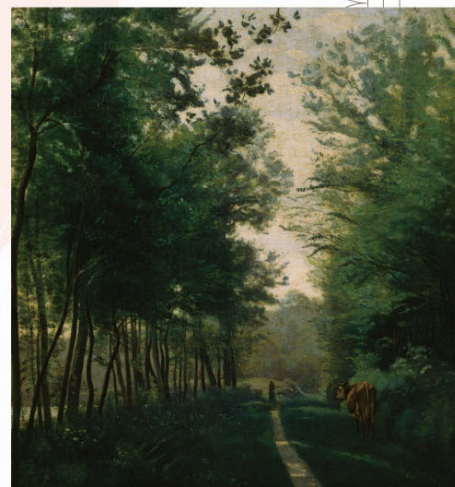
- 嘉永6年(1853)11月7日、現富山県高岡市一番町に、医師長崎言定の次男として生まれる。幼名重次。
- 明治3年(1870)10月、富山藩大参事林太仲の養嗣子となり、林忠正と称する。
- 明治4年(1871)1月、藩の貢進生として大学南校(後の東京大学)入学。
- 明治11年(1878)1月、横浜出港。3月にパリ着、パリ万国博覧会の通訳を務める。革新的な画家や文人との交際が始まる。
- 明治14年(1881)ルイ・ゴンスの『日本美術』の著述を助ける。
- 明治17年(1884)シテ・ドートヴィルで美術店を開業。イギリス・ドイツ・オランダ・ベルギーの美術館で日本美術の鑑定、整理。画家ラファエル・コランと出会う。
- 明治19年(1886)3月「高岡銅工二答フル書」を草す。5月『パリ・イリュストレ』日本特集を執筆。帰国。
- 明治23年(1890)4月、森鷗外、外山正一との「歴史画題論争」に加わる。11月、明治美術会に西洋現代絵画を陳列。西洋美術館に寄付するための近代絵画の収集を開始する。
- 明治31年(1898)3月、1900年記念パリ万国博覧会事務官長に就任。
- 明治38年(1905)3月、帰国。6月、発病後に治癒。
- 明治39年(1906)1月、病氣再発。2月、伊藤博文が見舞い。4月10日、永眠。享年52歳。



国立西洋美術館(台東区・上野公園内)



ウジェーヌ・ドラクロワ『馬の習作』(水彩)ブリタニオン美術館蔵。ドラクロワは1892年に林忠正がパリの画商アルフォン・ボルティエから購入した。



カミーユ・コロー『ヴィル・ダヴレー』1835-40年ブリタニオン美術館蔵。林はコローの作品を好み、『ヴィル・ダヴレー』はお気に入りの作品だった。

